

敬老の日は「海老の日」

一般社団法人日本海老協会(藤井努会長)は17日、敬老の日に制定された『海老の日』を記念し、『ベストシニア大賞授賞式』を東京・有楽町駅前広場で開催、市場業界から全国水産物卸協会の伊藤裕康会長のほか、国民的テレビ番組『笑点』に50年出演し続け今春勇退した落語家・桂歌丸師匠ら、各分野から受賞者5人が顔を揃え表彰を受けた。

ベストシニア大賞授賞式開催
桂歌丸師匠ら5人が参加



歌丸師匠(中央)と他受賞者、左端は日本海老協会・藤井会長

エビはヒゲが長く背中が曲がっていることから長寿の象徴として日本人に古くから親しまれてきたことから、敬老の日であるこの日を『海老の日』として2013年に制定。エビを食して家族の健康と長寿を願うことも、エビや水産物の消費拡大につなげようという狙い。ベストシニア大賞は長寿大賞日本において現役で活躍する元気なシニアを表彰するイベントで、今年で3回目となる。今年の受賞者は、「食卓笑顔部門」から公益社団法人落語芸術協会の桂歌丸会長、「エネルギー部門」から出光興産の月岡隆社長、「輸入開発部門」から日本水産の細見典男社長、「外

食産業部門」からすかいらーくの谷真社長、「地域貢献部門」から全水卸会長でもある中央魚類の伊藤会長。桂会長の食卓笑顔部門賞は、「長年にわたる笑点出演により国民の食卓における元気な笑顔に貢献した」というもの。昨年、今年と腸閉塞を病んだ歌丸師匠は車椅子で来場。しかし残暑厳しい太陽が照りつけるなか30分以上壇上にて待機し、自身の受賞順が来ると杖をついて自ら立ち、マイクまで進んで次の通り笑いを交えエビにまつわるエピソードなど語った。

「腸閉塞にならないにはどうしたらよいか医者にきくと、太れと云うことだが、それは私には無理。40歳代の頃50キ台になったのが最大、ましてや今の体重が36キなんてとても言えない。家族に疎遠で、祖母に育てられた。肉は昔手で魚ばかり食べてきた。とにかくエビ、カニは好物。エビの天ぷらを食べた時は尻尾まで食べなさい、そうすれば胸焼けを抑えられるし、作った人に対し失礼がない、その祖母の教えを今も守り続けている」。

また伊藤会長は渦中の豊洲移転延期について「お騒がせし大変お恥かしいが、安心安全に疑いがあるなかでの魚や青果物の取引は絶対いけない。まず安全なもの品揃えをし、安心して召し上がって頂く、使って頂くことが第一」と強調。エビについては「全国の卸売市場で大変お世話になった。話になっており、もっとも大事な商材と云って過言でない」と話した。

そのほか、出光興産・月岡社長の代理で出席した木藤俊一常務は、創業の明治時代、エネルギーとして一般的だった石炭業界の既得権益で陸上で石油メーカは商売ができないなか、下関の海上に基地を持ち漁船を得意先とするなど水産業界とのゆかりを披露。ニッスイの細見社長は海洋研修で天然エビの船上処理に追われた思い出、またすかいらーくの谷社長は、「外食の歴史はエビとともにあり、と云って過言でない」とし、どんな料理法にも合う食材としての優位性を語った